

協議会・構成員 村上市地域公共交通活性化協議会

村上市

JR、市ハイヤー・タクシー協会、学識経験者、北陸信越運輸局・運輸支局、村上警察署、PTA、工会議所・商工会、大学など

新潟県

事業名	補助対象事業者等	事業概要	①事業実施の適切性	②目標・効果達成状況	③事業の今後の改善点
陸上交通に係る 地域公共交通確保維持事業 (地域内フィーダー系統)	事業者名：新潟交通観光バス(株) 運行系統名：村上市まちなか循環バス	村上市区内	計画に位置付けられた事業は適切に実施された。 A	目標である1日平均利用者数80人に対し、21人の利用、事業収支率53%に対し、実質14%となっている。 C 運行開始から半年しか経過していないため、認知度が低いと考えられる。また、近年ない降雪などにより、利用者数が伸びなかったことも考えられる。	今後も利用促進に向けた継続的な啓発を実施していく。また、住民からの意見や要望を踏まえ、4月から運行ルートの改正や電車時刻改正に伴う接続時刻の見直しを行っている。今後は、買い物弱者対応も考慮した経路の検討を進めていく。
	事業者名：新潟交通観光バス(株) 運行系統名：馬下～板貝線	馬下～板貝	計画に位置付けられた事業は適切に実施された。 A	目標である1日平均利用者数3人に対し、2人の利用、事業収支率10%に対し、実質10%となっている。 A ほぼ目標を達成することができた。	今後も利用促進に向けた継続的な啓発を実施していく。また、住民からの意見や要望を踏まえ、運行形態や運行時間の見直しで、利用しやすい運行を推進していく。
	事業者名：坂町タクシー(株) 運行系統名：予約型のりあいタクシー(荒川地区内系統)	荒川地区内	計画に位置付けられた事業は適切に実施された。 A	目標である1日平均利用者数44人に対し、14人の利用、事業収支率36%に対し、実質10%となっている。 C 運行開始から半年しか経過していないため、認知度が低いと考えられる。	今後も利用促進に向けた継続的な啓発を実施していく。また、住民からの意見や要望を踏まえ、運行形態や運行時間の見直しで、利用しやすい運行を推進していく。
	事業者名：藤観光タクシー(株) 運行系統名：予約型のりあいタクシー(荒川地区内系統)	荒川地区内	計画に位置付けられた事業は適切に実施された。 A	目標である1日平均利用者数44人に対し、14人の利用、事業収支率36%に対し、実質10%となっている。 C 運行開始から半年しか経過していないため、認知度が低いと考えられる。	今後も利用促進に向けた継続的な啓発を実施していく。また、住民からの意見や要望を踏まえ、運行形態や運行時間の見直しで、利用しやすい運行を推進していく。
	事業者名：坂町タクシー(株) 運行系統名：病院帰宅のりあいタクシー(神林地区内系統 県立坂町病院方面)	県立坂町病院～神林地区内	計画に位置付けられた事業は適切に実施された。 A	目標である1日平均利用者数44人に対し、1人の利用、収支率69%に対し、実質3%となっている。 C 運行開始から半年しか経過していないため、認知度が低いと考えられる。	今後も利用促進に向けた継続的な啓発を実施していく。また、4月から帰宅のりあいタクシーのほかに、行きのりあいあタクシーを設定し、利用対象者が利用しやすい運行に向けた見直しを行っている。
	事業者名：藤観光タクシー(株) 運行系統名：病院帰宅のりあいタクシー(神林地区内系統 県立坂町病院方面)	県立坂町病院～神林地区内	計画に位置付けられた事業は適切に実施された。 A	目標である1日平均利用者数44人に対し、1人の利用、収支率69%に対し、実質3%となっている。 C 運行開始から半年しか経過していないため、認知度が低いと考えられる。	今後も利用促進に向けた継続的な啓発を実施していく。また、4月から帰宅のりあいタクシーのほかに、行きのりあいあタクシーを設定し、利用対象者が利用しやすい運行に向けた見直しを行っている。
	事業者名：(株)瀬波タクシー 運行系統名：病院帰宅のりあいタクシー(神林地区内系統 村上総合病院方面)	村上総合病院～神林地区内	計画に位置付けられた事業は適切に実施された。 A	目標である1日平均利用者数44人に対し、2人の利用、収支率69%に対し、実質7%となっている。 C 運行開始から半年しか経過していないため、認知度が低いと考えられる。	今後も利用促進に向けた継続的な啓発を実施していく。また、12月末から帰宅のりあいタクシーのほかに、行きのりあいタクシーを設定し、利用対象者が利用しやすい運行に向けた見直しを行っている。
	事業者名：岩船タクシー(株) 運行系統名：病院帰宅のりあいタクシー(神林地区内系統 村上総合病院方面)	村上総合病院～神林地区内	計画に位置付けられた事業は適切に実施された。 A	目標である1日平均利用者数44人に対し、2人の利用、収支率69%に対し、実質7%となっている。 C 運行開始から半年しか経過していないため、認知度が低いと考えられる。	今後も利用促進に向けた継続的な啓発を実施していく。また、12月末から帰宅のりあいタクシーのほかに、行きのりあいタクシーを設定し、利用対象者が利用しやすい運行に向けた見直しを行っている。
	事業者名：(株)はまなす観光タクシー 運行系統名：病院帰宅のりあいタクシー(神林地区内系統 村上総合病院方面)	村上総合病院～神林地区内	計画に位置付けられた事業は適切に実施された。 A	目標である1日平均利用者数44人に対し、2人の利用、収支率69%に対し、実質7%となっている。 C 運行開始から半年しか経過していないため、認知度が低いと考えられる。	今後も利用促進に向けた継続的な啓発を実施していく。また、12月末から帰宅のりあいタクシーのほかに、行きのりあいタクシーを設定し、利用対象者が利用しやすい運行に向けた見直しを行っている。

平成23年度 村上市地域公共交通地域公共交通協議会 地域公共交通確保維持改善事業（地域内フィーダー系統）概要

村上市の概要

- ・平成20年4月に1市2町2村が合併
- ・人口 6.6万人（平成22年10月現在）
- ・面積 1,174.24平方キロメートル
※平成22年国勢調査

村上市地域公共交通協議会

設立年月日：平成22年5月20日

構成員：国 新潟県 村上市 JR 新潟交通観光バス㈱
市ハイヤー・タクシー協会 学識経験者 北陸信越運輸局・運輸支局 村上警察署
PTA 商工会議所・商工会 大学など

事業概要

村上市は平成20年に1市2町2村が合併し、県内で最も広域な市です。公共交通機関は、広域交通としての鉄道や高速バス、合併前の旧市町村間を結ぶ地域連携（地域間）交通としての路線バス（廃止代替路線バス）、地域内交通としてのタクシーで構成され、車を運転できない高齢者等を中心に、病院、買い物、通学など生活に必要不可欠な交通として機能している。

しかし、人口の減少と自家用車の普及により、本市の公共交通利用者は減少し、公共交通維持のため行政負担の増加など、運行に関する諸問題が発生しています。また、山間部や海岸部などの一部地域では、交通手段そのものが確保されていなかったり、住民に不便を強いている状況にもあります。

このような状況を考慮し、本市の望ましい公共交通体系の構築に向けた、持続可能な各種事業を実施し、このうち持続可能な地域内交通を確保・維持する取組として、まちなか循環バスや乗合いタクシーを公共交通体系と連携させ、住民生活の不便を解消するため、平成23年10月から実証運行として実施している。

協議会の主な取り組み

- ・地域公共交通の実証運行計画の策定及び変更
- ・実証運行の事業評価

平成23年度 村上市地域公共交通協議会 地域公共交通確保維持改善事業（地域内フィーダー系統確保維持事業）概要

定量的な目標・効果

村上地区内〔村上地域公共交通計画総合連携計画〕

- 【目標】
- ・公共交通利用者の利用頻度18%を40%以上とする。
 - ・公共交通サービスの満足度63%を80%以上とする。
 - ・デマンド型タクシーの収支率は40%以上とする。
 - ・路線バス1便あたり輸送人員3.3人を6人以上とする。

- 【効果】
- ・市街地の空白地域、不便地域の解消。
 - ・市街地外と市外からの来訪者のため、鉄道や周辺地区からの既存路線バスと連絡させることで利便性を向上させる。
 - ・高齢者等の生活実態を踏まえた便利な交通網への改善。

協議会における検討

協議会の開催状況 3回開催

- ・第1回（6月16日）利用料金・運賃設定
- ・第2回（9月14日）実証運行の評価と今後の展開
- ・第3回（2月9日）実証運行の中間評価

利用者等の意見の反映

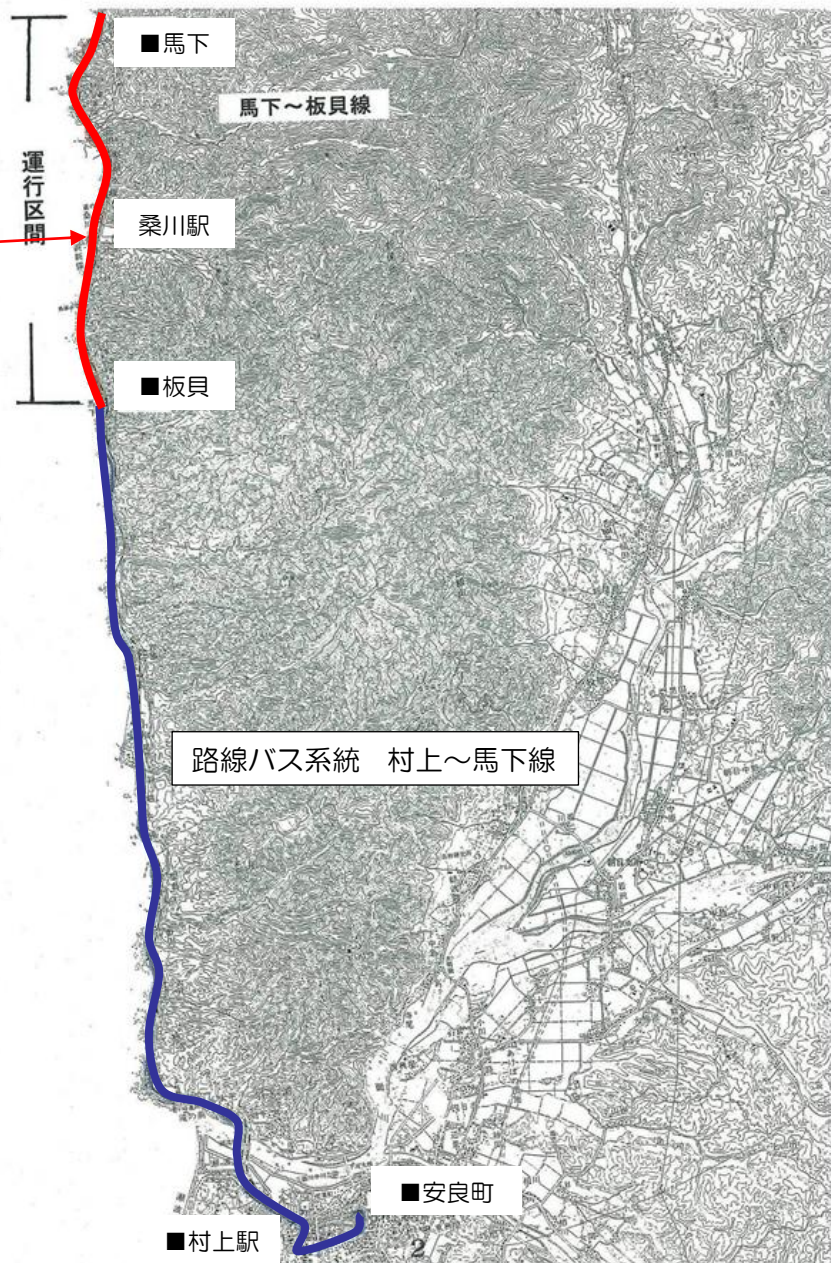
- ・運行開始後は、目的主要施設（病院）において、PRを兼ねた利用状況、運行の問題点を把握するため、職員が聞き取り調査を実施し、聞き取り調査の結果を踏まえて改善を図っている。

運行系統図



■地域内フィーダー系統：馬下から板貝線

地域間ネットワークJR桑川駅に接続



■馬下

馬下～板貝線

運行区間

桑川駅

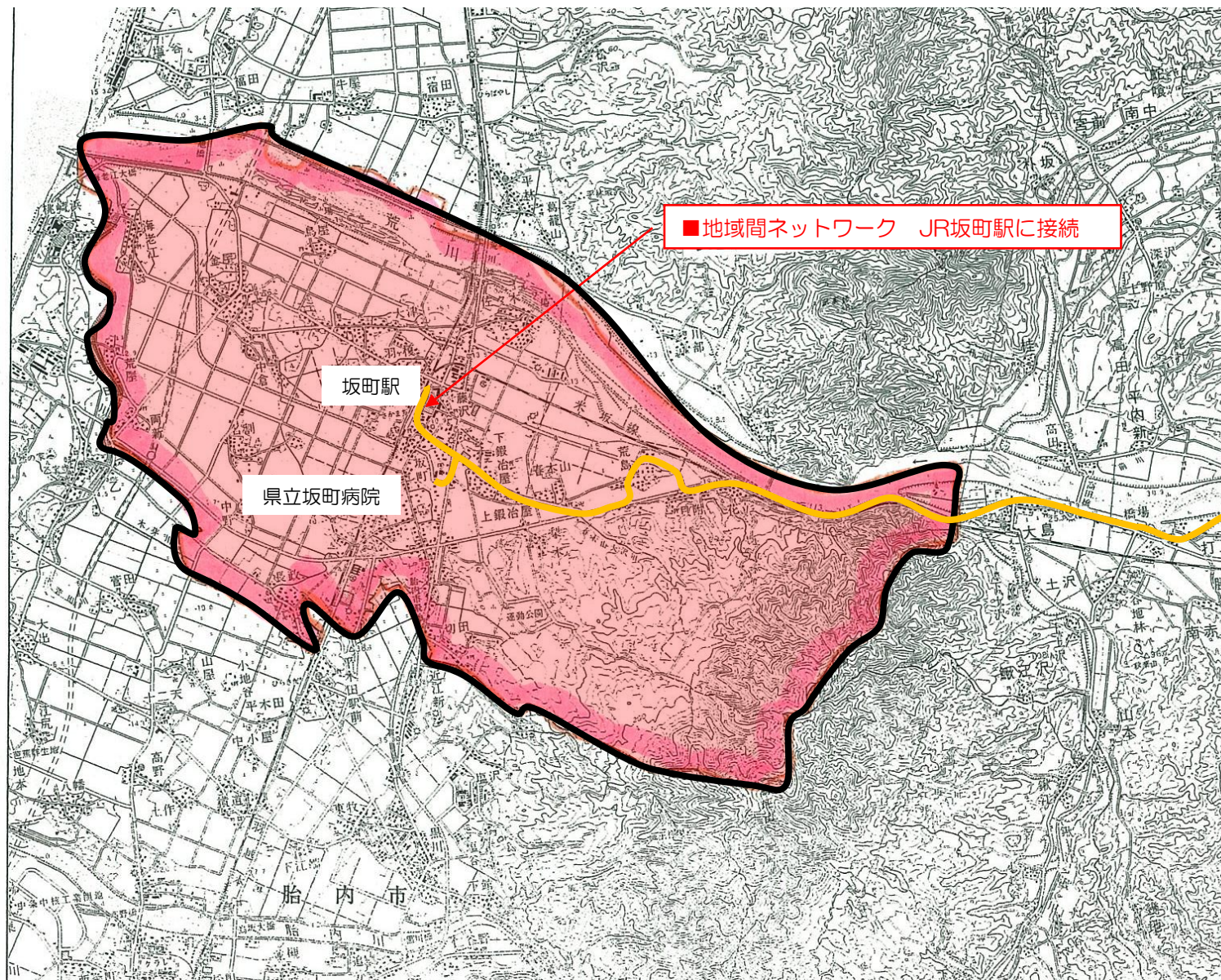
■板貝

路線バス系統 村上～馬下線

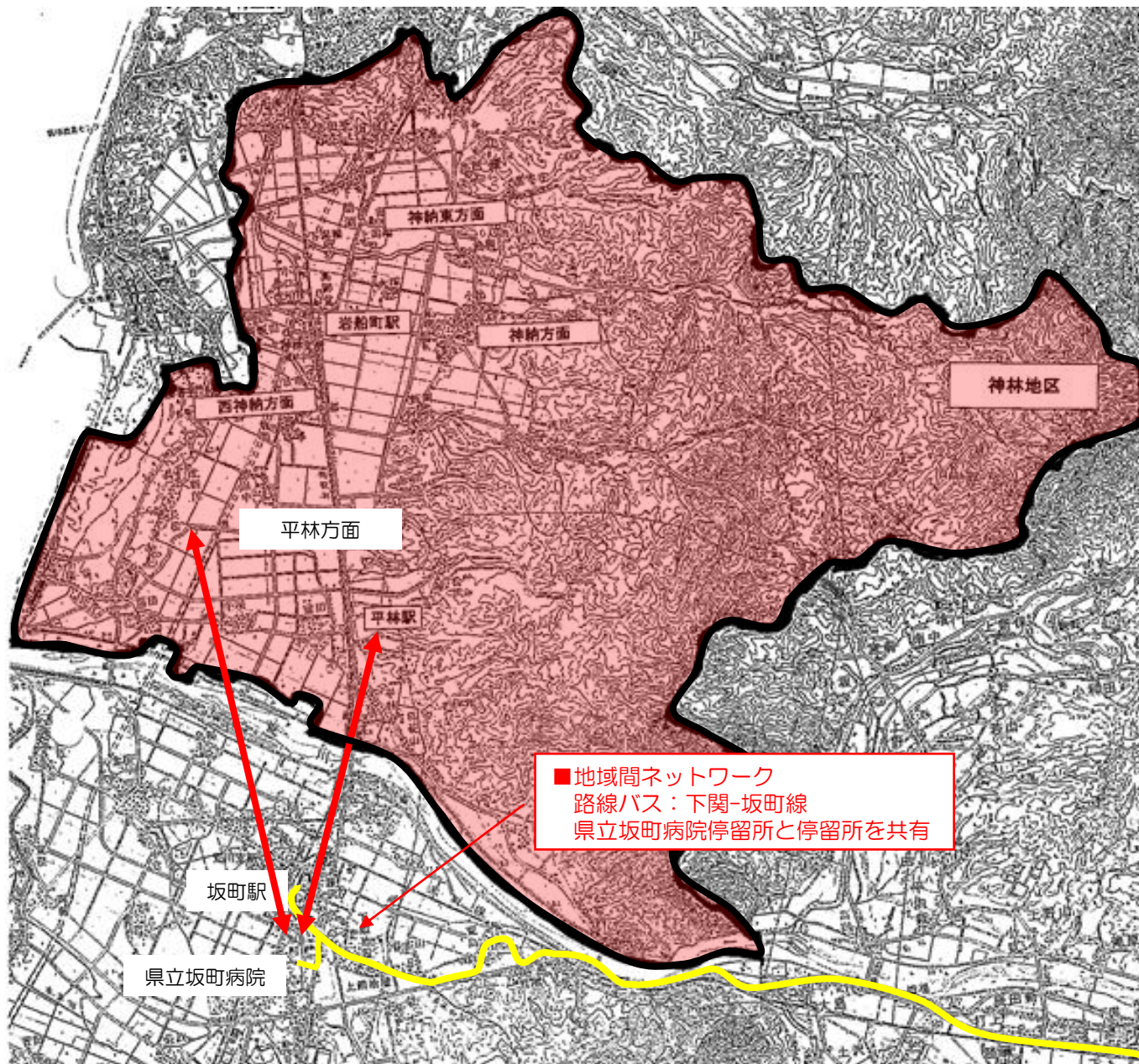
■安良町

■村上駅

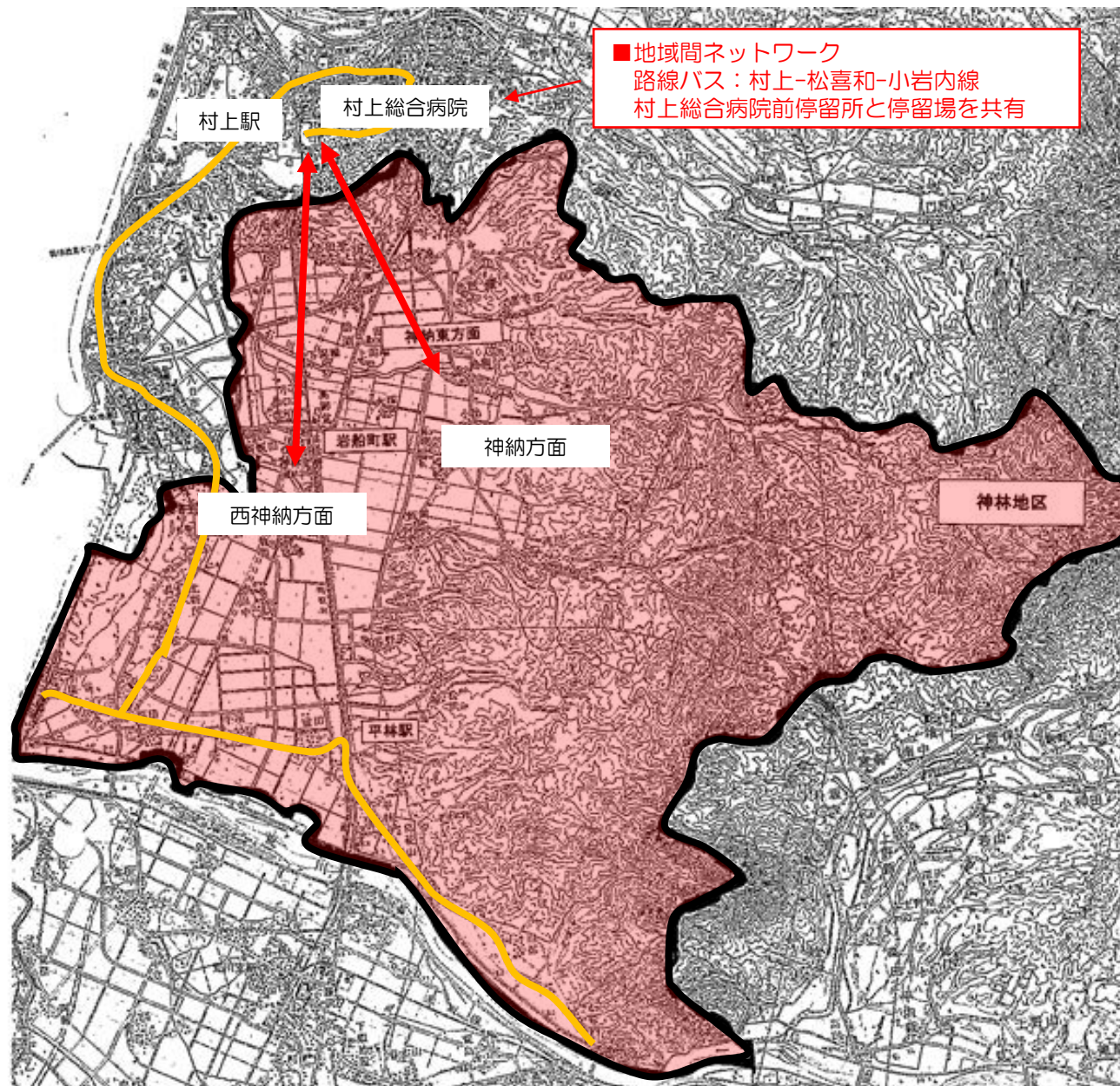
■地域内フィーダー系統：予約型のりあいタクシー（荒川地区内系統）



■地域内フィーダー系統：病院帰宅のりあいタクシー（神林地区内系統 県立坂町病院方面）



■病院帰宅のりあいタクシー（神林地区内系統 村上総合病院方面）



平成23年度 村上市地域公共交通協議会 地域公共交通確保維持改善事業（地域内フィーダー系統確保維持事業）概要

事業実施の適切性

- ・ 村上地域：公共交通空白域の解消に向け、市街地内の病院・駅などへのアクセスすることで、市民生活の維持を図ることができる。
- ・ 山北地域：地域間交通ネットワークと連携した運行により、病院・駅などへのアクセスすることで、市民生活の維持を図ることができる。
- ・ 荒川地域：公共交通空白域の解消に向け、病院・駅などへのアクセスすることで、市民生活の維持を図ることができる。
- ・ 神林地帯：公共交通空白域の解消に向け、病院・駅などへのアクセスすることで、市民生活の維持を図ることができる。

目標・効果達成状況

- ・ 市全域：地域内フィーダー5系統別に設定した1日当たり利用者数及び収支率については、運行開始時期が平成23年10月からまだ6ヵ月しか経過していないため、ともに低調の数値となっている。今後高齢者の通院だけでなく、買物等の目的にも対応した運行も含めた利用促進の在り方も検討する必要がある。

事業の今後の改善点

- ・ 各地域内フィーダー系統ごとに利用促進に向けた継続的な啓発を実施していく。
- ・ 各運行状況を把握し、地域公共交通の利用促進に向けた運行方法の改善や見直しを検討していく。